

出張報告書

平成30年10月26日

議長 京西 且哲 様

会 派 名 自民クラブ

代表者氏名 池内 矢一

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 第80回 全国都市問題会議（研修）
- 2 出張先 新潟県長岡市大手前1丁目4番10
- 3 出張期間 平成30年10月10日～平成30年10月12日
- 4 出張者氏名 池内矢一/井上源次/岡林憲二/反甫旭
- 5 てん末報告 別紙の通り

① 基調講演

「地方分権へのまなざし」

本郷 和人（東京大学資料編纂所教授）

② 主報告

「長岡市の市民協働」

磯田 達伸（新潟県長岡市長）

③ 一般報告

「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」

前葉 泰幸（三重県津市長）

「場所の時代」

隈 研吾（建築家・東京大学教授）

④ パネルディスカッション

「市民協働による公共の拠点づくり」

コーディネーター 牛山 久仁彦（明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授）

パネリスト 伊藤 香織（東京理科大学理工学部建築学科教授）

奥山 千鶴子（NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長）

羽賀 友信（長岡市国際交流センター「地球広場」センター長）

松本 武洋（埼玉県和光市長）

楠瀬 耕作（高知県須崎市長）

第80回全国都市問題会議が「市民協働による公共の拠点づくり」というテーマで新潟県長岡市にあるシティホールプラザ・アオーレ長岡において開催された。本市においても公共施設をどのように適正配置をし、有効活用していくかが課題であり、今回のテーマは非常に興味深いと感じていた。

他市の事例の中で最も印象に残っていることは津市の取り組みである。公共施設マネジメントを考える際は、津市の住民自治の伝統を踏まえながら、市民との意思疎通に留意し、進めていくことが大切だと述べられていた。市民としっかり対話と連携することに本市では何か避ける傾向があるように感じている。そうではなく、市民が理解した上で、公共施設の統廃合なども取り組まなければ、余計に市民の不満は大きくなると思う。財政は厳しい状況が続いており、公共施設の適正配置という課題は避けては通れない。その課題を市民と共有し、これからのまちづくりをともに考えていくべきである。

また、市民と対話する際は地域ごとにもそれぞれ違う意見があるので、例えば、都市部と山間部では対話のやり方が違うとのことであった。本市でも、各校区に市民協などもあり、それぞれの考え方があると思う。そのことを行政も理解しながら、本市にとって市民活動の拠点となる公共施設のあり方を考えていかねばならない。そして、私たち議員も市民の理解が深まるために行政と連携し、市民に説明していく責任があると感じた。

以上